

PACK ON

2016-2017 No.23

岡山細胞検査士会会報

CONTENTS

部屋に犬のいる生活

●前口上

リレー 他己紹介

●川崎医科大学附属病院

待望の連載シリーズ、第2弾！

●山崎友奨のGTO

PCオタク K's Presents

●コンピュータ・ワンダーランド 2016年度版

好評連載・第2回

●モリっちの 深煎り読書録

岡山市内新築ラッシュ編

●新築さん、いらっしゃい！

帰ってきた入門シリーズ

●座長入門

今年もみんなでがんばりました！

●子宮の日・2017



前口上

部屋に犬のいる生活

犬を飼い始めて3年になる。以前にも飼ったことはあるのだが、家の外に犬小屋をしつらえて飼っていたので、完全に室内犬として、家の中で飼うのは自分にとって初めての試みである。とはいうものの、もともと動物と共存していくことにあまり抵抗感はなく（ムカデ、ナメクジたちとは仲良くしたくないが、クモくらいなら可）、まあ家の中がにぎやかになっていいか、くらいの感覚でいる。白い犬なので、フローリングのそこそこに白い毛が落ちまくっているが、さほど気にならない。いや、もちろん掃除はしますけどね…。

カミさんは成年生まれということもあってか（関係ないか？）、なみなみならぬ愛犬家で、あれやこれやと芸を仕込んだり、しつげに背くと説教などしている（写真1）。説教の内容が伝わっているのかどうか定かではないが（後日の行動から判断するに、おおむね伝わった様子はない）、説教されている間だけは妙に神妙な面持ちで反省の体をとっているところが傍目には実に面白い。



写真1 犬に説教する人、人に説教される犬

愛犬「こむぎ（♀）」は、御津の動物愛護センターで開催されている譲渡会でいたでいてきた。何匹もいた子犬の中から彼女が我が家にやってきたのも何かのご縁ということだろう。実際、譲渡会で私が指名しようとした子犬は彼女ではなかったのだが、最終的にお父さんの意見は却下され、娘たちの意見により彼女が我が家にやってくることになった。人生（犬生？）とはわからないものである。いずれにしても、うちで預かった以上は、本人（本犬？）にとって「来てよかったワン！」と思えるようにしてやるのが飼い主としての使命であろう。冬場、コタツから顔だけ出して眠りこけている姿を見るにつけ、「来てよかったワン！」と思ってくれるはず、と勝手に想像しているが、こればかりは聞いてみなきゃわからない（写真2）。

ペットをめぐる様々な問題が取沙汰されている昨今である。殺処分になる犬や猫の問題も、動物愛護センターで詳しくお聞きした。動物愛護センターでの譲渡会は広く一般に開かれている（ただし、譲渡を受けるには、講習を受けたり、いくつかの約束事を守る必要がある）ので、犬や猫を飼うことに興味がおありの方は、ぜひ一度訪ねてみられることをお勧めする。動物を飼うことは医療に従事することに似ているのかもしれない。



写真2 やっぱり冬はコタツがいちばん！

（文・藤田 勝）



他己紹介

川崎医科大学附属病院の巻

福屋美奈子さんのご紹介

福屋美奈子さんを紹介します。

福屋さんは職場の一部からは「ばんちゃん」と呼ばれていますが、何か公表していない過去の経歴から「番ちゃん」でも、夜遅くまで仕事を頑張るので「晩ちゃん」でもなく、旧姓の「坂東（ばんどう）」に起因しています。私とは歳が近いので（おっと内緒でしたか）昔からの同僚ですが、昔からちっちゃくて細いのによく食べ、よくしゃべり、よく歌い、そしてちょこちょこよく働くという印象です。なぜかうちの病理は福屋さんを筆頭に小型の人類が多く、来るべき大型現代人用に設計した病理部は、棚や机が高いとみんなの不満の対象となっています。「細いのに」の現状については残念ながらご紹介することができませんが、デスクワークの増加に対し、食欲の低下が軽微なことを考えると・・・これ以上書けません。よく食べるといえば、昔から昼食の後は何かデザート的なものを何かしら必ず食べている印象です。呪文のように「甘い物の後には辛い物、口直しに甘い物・・・」と言いながら永久連鎖を楽しんでいるようです。それから宴会に行っても最後まで箸を置かないのは私も同様ですが、体の成長では負けてはいません。私は訳あって喉が弱い（禁煙しましょう！）のであまりしゃべらないことにしているのですが、その代行なのか福屋さんはよくしゃべられます。一人でいるときもしゃべっているようで、話しかけられたかと返事をするとう「独り言です」ということが良くありました。最近ではそっとしてあげているのですが、「返事がない！」とよく怒られます。そういえば最近の会話には「あれ」「それ」の活用が著しく、同僚のKさんとの会話を聞いていると二人とも「あれ」の応酬で、よく会話が成立するものだと感心しています。歌については以前はカラオケに皆でよく行き、病理の歌姫として君臨されていましたが、最近では行く機会もないので福屋さんの美声をこしばらく聞いていません。たぶん



MINAKO FUKUYA

通勤の車の中で熱唱しているのではないのでしょうか。仕事についてはまさに「コマネズミのように」よく働いてくれます。書類作成や日勤表、勉強会の予定や後輩指導に細胞診の出張、最後の見回りに至るまで数々の面倒な作業は、右から左に福屋さんに渡すことになっており、いつも大変お世話になっています。なお、私は書類についていつも締め切りギリギリまで頑張って完成度を高めること(?)にしていますが、そこは見習わないでくださいね。

「あのこと」やら「そのこと」など、福屋さんエピソードは書き足りないのですが、これからも“いつまでも病理のアイドル福屋さん”をよろしくお願いします。(番ちゃん、これくらいで良かったでしょうか)

by 小林博久

●ご本人からのコメント

小林さんへ

他己紹介ありがとうございます。

いつもなら、「はい、これお願いね。」と渡された書類は、赤ペンを握りしめ、「ここはおかしい!」とぼっさぼっさと斬り進めていくところなのですが、今回は、私の紹介文を書いてくださったので、残念ながら、直すことができないので、少しばかり補足をしていきます。

まず、「細いのに」の現状ですが、傍目に見ても明らかですが、気力・体力はもう下り坂であるにも関わらず、こちらの方は、人生最大の山を登り続け、頂上はいつやってくるのかというところでしょうか? 早く下り坂にならないかな…(わかってはいますが、自然にはやってきません)。でも、小林さんも昔に比べたら…ですよ。お互い通販で買い求めた〇〇グッズの数々が、ただの浪費にならないよう頑張りましょうね。

「最近の会話」については、確かに「あれ」「それ」が多くなってきましたが、そこは永いお付き合いの小林さんにはなんとか通じているのでは?と思いますが、問題なのは、聴力の方なのです。普通、年齢を重ねると、モスキートの音域の方がやられてくるらしいのですが、私の場合は、そちらは、ぼっちりなのですが、なぜか、小林さんの音域がやられてきているらしく、「えっ、今なんと?」ということが多々あるのです(それは、こころの耳が聴かないふりしているだけかも?と思っている人いませんか?)。なので、私とお話するときには滑舌に気を付けてくださいね。

「歌」に関しては、確かに、人前で歌う機会はなくなりました(ちょっとさみしい)。それと、最近、口数が減ったため?か、よく口の中を噛んでしまうので、口の動きも下り坂なのかも…ということで、家では、童謡から懐メロまで(最近の楽曲にはついていけないので…)幅広く、ロずさんでおりますよ。

と、いうところで、返信は以上です。過分なご紹介どうもありが

とうございました。これからも、頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

小林江利さんのご紹介

小林江利さんを紹介します。

小林江利さんと私は、川崎医療短期大学の同級生で、えっちゃん、ばんちゃんとお互いを呼び合い、かれこれ、4半世紀以上(正確に言うとながばれてしまいますので…)の仲なのですが、川崎医科大学附属病院という職場でのお付き合いは、約5年になります。というのも、もともと、えっちゃんは、岡山の川崎医科大学附属川崎病院(平成23年4月より、川崎学園 川崎医科大学附属川崎病院 現在、川崎医科大学総合医療センター)の病理部に就職し、主に、組織検査の方を中心に活躍してこられました。岡山臨床検査技師会の学術委員をされていたこともあるので、みなさんよくご存じかと思えます。ところが、平成23年に、川崎病院の経営が川崎学園に移ったことから、倉敷の川崎医科大学附属病院との間で、人事交流が始まり、現在は倉敷での勤務となったという訳なのです。前置きが長くなりましたが、いざ、えっちゃんとは、どういう人物か紹介するとなってみると、何を書いたらよいのか…と悩んでしまいます。私の知るえっちゃんは、とても、きちんとした性格で、趣味は、お掃除、お料理で、家にいるのが大好きとっていますが、お料理は作るのも、食べるのも大好きで、いろいろなお店の情報をたくさん知っています。また、読書や美術鑑賞も好きで、とにかく、幅広い知識を持ち合わせていて、常識のない私たちにとって、いろいろと教えてくれる頼りになる存在です。また、意外かもしれませんが、お茶目なところもあって、毎年、私たちを楽しませてくれるのが、年賀状です。半年以上前(ここが、えっちゃんらしい)から構想を練って、大変身した姿を、私たちに届けてくれるのですが、本当にあっぱれです。もし、この年賀状をゲットしたい方は、ぜひ、えっちゃんとお近づきになってくださいね。

by 福屋美奈子

●ご本人からのコメント

ばんちゃん、過分な紹介をして頂き、ありがとうございます。

ばんちゃんは、学生時代より優秀で、ちっちゃくて、可愛くって、誰が見ても私と同級生には見えません。また、川大に就職してからも研鑽をつまれ、人望も厚く、指導者として頼れる存在です。そして、家庭では、病理医のご主人を支え、医学部生の息子を育てるスーパーママです。それを優雅に軽やかに毎日こなしているばんちゃんは若い世代の目標になっているのではないのでしょうか？ こんな素敵な同級生がいる私は幸せ者ですね！

ERI KOBAYASHI





RYOSUKE YONE

米 亮祐さんのご紹介

川崎医科大学附属病院 病院病理部のニューホープの米 亮祐君を紹介します。

まず、皆さんは“米”を何と呼んだら良いのか？迷いませんか？
“コメ？”“マイ？”漢字としては難しくないけど、読めないですよね。 皆さん！「ヨネ」です !!

さて、米君は、川崎医療短期大学を卒業後、病院病理部に配属され、13年間勤務されています。苗字はとてもレアなのですが、当の本人はとってもノーマルな優しい男性です。組織標本作製、細胞診、免疫染色、筋組織化学、電子顕微鏡と大学病院ならではの多彩な病理業務をこなしています。特に、免疫染色については、大変詳しく、私のような年寄りにも、懇切丁寧に優しく教えてくれるので、私は“私の自慢の息子！”と呼んでいます。(笑)

また、短大 臨床検査科の学生の指導にも熱心で、ジョークを交えながら理解しやすく指導しています。みなさん、”米“の読み方もお分かりになったと思いますので、是非一度、彼にお声をかけてくださいね。きっと優しい笑顔で、答えてくれると思いますよ。

by 小林江利

●ご本人からのコメント

えりさん、紹介ありがとうございます。

川崎医科大学附属病院の ヨネです。

ここ数年、細胞検査士会には顔を出せていませんが、数年前まで役員として顔を出していたので、名前は覚えていらっしゃる方も多いのでは…。むしろ覚えていただけてないほうが悲しいです。

ニューホープと紹介されましたが、就職当初は確かに、後輩は入ってこないといわれ、その通りと思っておりましたが、気づけば後輩が増え、上から数えた方が早くなってしまいました。

少しでも先輩面ができるよう頑張りますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

菅野豊子さんのご紹介

私が紹介するのは菅野豊子さんです。川崎医大附属病院にいる細胞検査士の中で最も若い女の子です。一番若いですが、細胞検査士でも活躍しており、また出身の倉敷芸術科学大学でも創設間もない〇期性であるため、ベテランの細胞検査士はもちろん、新人の細胞検査士の方でも知られている存在です。

ただ、菅野という名を聞いて、「ん？」って思う方もいらっしゃるかと思いますが、彼女は一昨年、御結婚して、「荒木」から「菅野」に名字が変わりました。職場では相変わらず、「荒木さん」と呼



ばれてはいますが…。

彼女自身は、とても穏やかで、怒っているところは、滅多にみませんし、(みなさんも多少は言ったことがあるでしょうが) 愚痴もこぼしません。そういったところが、私たち病理部の技師や先生はもちろん、他科の医師や看護師、看護助手の方など、あらゆる職種の方に好かれるところではないかと思います。最近では、実習に来る短大生の実習にも責任を持って指導していますし、細胞検査士による子宮頸癌検診の啓蒙など、幅広く活躍しています。

家庭のこともあり、大変な毎日とは思いますが。先輩の私としては、恥ずかしながら、おんぶにだっこ状態ですが、これからもよろしく願います。

by 米 亮祐

●ご本人からのコメント

過分な紹介ありがとうございます。こんな風に書いていただけて光栄です。

仕事も家庭もお忙しい中、仕事をきっちりこなし、情熱をもって学生・後輩指導をする米さんについて行くのに必死です(汗) ついて行けているかは不明ですが、いつも新しい気付きや学びをさせていただき、ありがとうございます。

物事の進みが亀な私ですが、粘り強く頑張っていく所存ですので、今後ともご指導のほどよろしく願います。

ここで少し、「菅野」という苗字になって早2年・・・読み方は「スガノ」なのですが、よく「カンノ」と間違われます。そして「菅」の字ですが、「草冠」が正解ですが「竹冠」と間違われます。ややこしい苗字です(笑)

最期になりましたが、子宮頸がん検診啓発活動の LOVE49 街頭アクションに毎年、多くの会員の皆様にご参加いただきまして感謝いたします。2017年も頑張っていきますので、皆様のお力添えのほどよろしく願います。素敵なお活動にしていきたいので、いいアイデアありましたら、ご一報ください！お待ちしております(´艸`*)

小林博久さんのご紹介

私が紹介するのは、川大病理部技師の長である「小林博久」さんです。川大病理部には、男性、女性と『小林』が2人います。ご存知だとは思いますが、決して夫婦ではないので皆さん、お間違いないように！！

今回紹介する男・小林さんは、どのようなイメージかと聞かれると・・・、コンピュータ。システム。病理好き。おやじギャグ。こだわり派。変わってる人。奥様が美人。コーラ。ピーマン。粒あん。お話し好き。冬が苦手。カエル(蛙)。山登り。バトミントン。な



ど、色々なキーワードがあります。

この中で、僭越ながら私が少しだけご紹介させていただきます。

小林さんは学生時代から病理一筋の方で、組織標本作製、特殊染色など分からないことは、聞けばすぐに答えてくれます。そして、知識もとても深いので、少しずつ染色のことなど分かってくと話していて面白いです。聞けばエンドレスに話してくれます。また、珍しいものを収集したり、精製（廃液の銀液から銀を精製 etc.）したり、閃いたアイデアを実践しています。この時点で、こだわり派と変わってる人ということが伝わったのでないでしょうか。

また、小林さんの大事な要素のコンピュータについてはこのPACK ON でもおなじみの「コンピューター・ワンダーランド」に詰まっていますので、詳しく小林さんを知りたい方はご愛読ください。好きが高じて、〇〇〇という資格までもっています。

そして、今年で2年目ですが小林さんは現在、岡山細胞検査士会の会長を務めています。色々な会で、会う機会があると思いますので、ぜひ小林さんにご興味・ご関心・聞きたいことをお持ちの方はどしどし話しかけてください。話しかけづらいな～とお思いの方、朗報です！小林さんは稀に寒いギャグを言って北風ぴゅーぴゅーの時もありますが、とっても優しいのでご安心を！

書ききれないエピソードは数知れず。書ききれなかったキーワードもちらほらと。気になった方は、本人もしくは菅野まで！いつでもお答えします！

最後になりましたが、いつもたくさんのことを丁寧に教えていただき、とても感謝しています。まだまだ、色々な面で未熟な私ですが、精進していく所存ですので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

by 菅野豊子

●ご本人からのコメント

長文でのご紹介ありがとうございました。

昔から理科が大好きで、ヒーロー物に出てくる何でも知ってる科学者にあこがれていました。小学校の頃から試験管を振り回し、中学では顕微鏡を買い、高校では生物部でカエルを研究していました。どうもこの職についてのもその延長のようです。食べるものにはそれほどこだわりがなく、お腹がいっぱいになれば何でもよいのですが、ピーマンはどうも好きになれません。そもそもピーマンは・・・この話は長くなりそうなのでやめておきます。

コンピュータについては字が下手なうえに漢字を知らないので使い始めましたが、現在、医療情報技師の資格更新が無事できたところです。なお、北風ぴゅーぴゅーの寒いギャグは暑い夏に向けて鋭意準備中です。

最後に、菅野さんには日常業務の他に、この検査士会の仕事も大変がんばってもらっています。今後ともよろしく願いします。



とある夏の日、娘から思いがけない一言が飛び出しました。

「パパ、流しそうめんが食べたい！！」

いったいどこでそんな単語を覚えてきたのか…こうして今回の行き先が決まったのであります。

■ 岡山で堪能！？流しそうめん編

皆さんこんにちは、山崎です。娘の一言から記事を書くモチベーションが湧いてきました(笑)。調べてみると、どうやら県北には流しそうめんを食べられる場所がいくつか存在しているようです。今回は津山市にある‘横野の滝 もみじ亭’を目指すことになりました。

国道 53 号線をひた走ること 1 時間半、津山市の中心街が見えてきました。単調な道で面白くねえなあ…ってか暑い…と山崎は早くもバテ気味でしたが、ここからさらに県道 68 号線→国道 476 号線へと 30 分ほど車を走らせる必要があります。グリーンヒルズと呼ばれるプールを越えると、一気に景色が変わってきます(写真①)。美しい緑を横目に走り続け、気がつけばセンターラインがなくなり、集落の中を進んでいることに気がつきます。さらに進んでいくと、車 1 台がぎりぎり通れる道に変わり(写真②)、「対向車来たらどうするんじやろ…来るなよ～、来るなよ～」と独り言をかましながらおそろおそろ車を走らせることになります(運転が苦手な人にはちょっとおすすりできないかもしれませんね…)。そうこうしているうちに今回の目的地が見えてきました(写真③)。「横野の滝」は一の滝・二の滝・三の滝からなり、それぞれに滝壺があります。滝壺には龍神が住むと言われることから龍淵とも呼ばれ、二の滝には竜王神を祀る社祠があつたりします(写真④)。「もみじ亭」も二の滝のすぐ下にあり、横野川の清流を利用した流しそうめんが堪能できるというわけです。車を降りてから、まず気がつくのがその涼しさ。猛暑にも関わらず汗がひいていきます(車の中の方が暑いんじゃないかな…)。周りには木々が生き茂っていて家は一軒も見当たらず、どうやら市街地と比べて 5℃以上も気温が低いようです(写真⑤)。しかし、残念なことに清々しい気分は次の一瞬で消え去ることになります。見えてきたのは長蛇の列…お昼ごはんからは少し時間をずらしたつもりでしたが、待っている人達は軽く 10 組を超えているでしょうか。「お昼ごはんに被ると、4 時間待つことがあるよ」と地元の人の談。狂おしいほどの流しそうめん愛を感じました(笑)。待つこと 1 時間、やっと山崎の順番が回ってきました。先に注文と会計を済ませるシステムの様です。レジの横には実際の料理とともにメニューが貼られていました。手書きのメニューがなんとも味のある雰囲気を出しています(写真⑥)。流しそうめんだけかと思っていたらあらびっくり、ジンギスカンまで食べられるらしい。レジの向かいに



ある小川では、メニューに書いてある飲み物がざるに入れて冷やしてあったりします(写真⑦)。つゆと薬味を受け取ってよいよ竹筒の前へ(写真⑧)。薬味はネギ・ショウガ・オオバ・ミョウガの4種類でした。盛り方が雑過ぎて逆に清々しい(写真⑨)。お茶も、部活で使うようなウォータージャグから紙コップへセルフで入れるようです。他のお客さんを盗み見していると竹筒の終わりに置いてあるざるにそうめんが山盛り(写真⑩)。みんなへたくそだなあとその時は思っていたのですが、その理由は後ほど判明します。さて、すべての準備が整い、いざ実食といきたいところでしたが、待てども待てども「流しますよ～」というアナウンスがありません。さすがに混んでるし時間がかかるんだろうなあ、お店の人頑張れ～とか漠然と考えていました。ふと目を離れたその瞬間、

「キター！！」

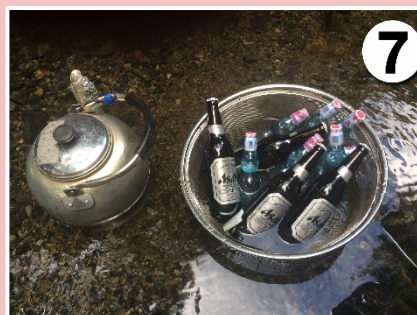
娘の叫び声が聞こえました。山崎はそこで大きな勘違いをしていたことに気が付きます。そういえば、さっきから「流しますよ～」の声なんて1度も聞こえていないじゃないか…。実は、この「もみじ亭」では、そうめんが完全に機械制御で規定量流れてくることになっているそうです。つまり、流れてくるタイミングが分からず、いきなりそうめんが目の前に現れることとなります。娘はそうめんが流れていることに見とれて取りこぼし、山崎もよそ見をしていたおかげで無事最初のそうめんを取りこぼしました(写真⑪)。そこからは断続的にひたすらそうめんが流れてきます。そうめんが水流と同化して、これがまた見にくいなの…そうめんがざるに山盛りになる原因はまさにこれだったのです(他のお客さん、馬鹿にしてすみませんでした)。ひたすら流れてくるそうめんに苦戦する娘、それをフォローする山崎、ざるに溜まっていくいっぽうのそうめん…現場はかなりカオスな状態に。これ、ざるから食べた方が早いんじゃないか…という雑念が何度も頭の中をよぎりました。いやいや、流しそうめんは流れているのを嗜むから流しそうめんなんだ、と若干哲学的になりながら格闘すること10分程、努力の甲斐むなくほとんど食べられないまま、すべてのそうめんが流れ終えたようです。他のお客さんと同じく、山盛りになったざるからそうめんをむさぼり食べる娘と山崎なのであります。

娘が帰りの車の中で一言、

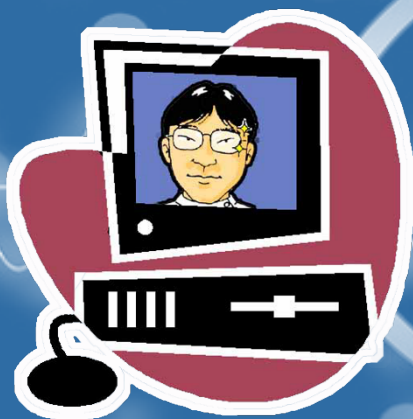
「楽しかった！！」

はい、どうみても食事ではなくアクティビティです、本当にありがとうございました。子連れの方は、娯楽として楽しむ目的で行くのもありかもしれませんね。大人だけ行って、いかにざるに積まずに食べられるかを競うのも面白いかも。そうめん自体の量もさることながら、サイドメニューのおにぎりもかなり大きいことで有名みたいです(写真撮っておけばよかった…。) 今度行った時はジンギスカンも食べてみたいなあ…そんなことを思う今日この頃です。狭い道の運転と行列に並ぶ自信のある皆様、一度お試しあれ。

「もみじ亭」 TEL : 086-827-2644 岡山県津山市上横野 2135-1
営業時間 : 4月～8月 11:00～17:30 9月～11月 11:00～14:00
不定休、駐車場 : 30台程度(車じゃないといけません…)



遙かなる3Dプリンターへの道



K's Presents

コンピュータ

2016年度版

ワンダーランド

アモーレ！ 3D！！ の巻き

.....

今年は、何となく暖かいですね。と、大晦日の除夜の鐘がどこかで鳴っている今日この頃ですが、皆さんいかがお過ごしでしょう。

今年(2016年)のうちにとっていたこの原稿は、気になっていたにもかかわらず年越しのカウントダウンが始まる直前にやっと書き始めました。今年はPCにとってあまり大きなニュースもなく、我が家もプリンタの買い替えと、NASの増設でしょうか。例によってプリンタですが、最近ほどのプリンタも性能が良くなってきていることと、年とともに目の分解能が低下しているせいもあって、安いプリンタでも見分けることができないほど十分な性能を持っています。印字性能が十分ならあとはスキャナや、FAX機能、無線接続などの付加価値と、インクの値段、プリンタヘッドの目詰まりなどが選定基準ではないでしょうか。インクが染料系か顔料系かも気になるところですが、それほど保存年数にこだわらなくても、必要な時に最高の画質で出力すれば済みます。プリンタ本体の価格も落ちていますが、互換インクも格安で手に入ります。今回は全部こみこみで、オートドキュメントフィーダ(ADF)もお付けして何と

25,000 円！さらにインクは 3 パック(5 色×3=15 本)付きで超お得！……。もう、プリンタの機種選定で悩むより、買った方が早いようです。たとえ壊れても、修理するよりさっさと買い替えですね。ここまで家電化したプリンタは次にどんな進化をするのでしょうか。まずはカラーバリエーションがおしゃれなパステル調の選べる○色になって、形状もスタイリッシュや縦型、小型軽量、低電力、使い捨てプリンタ？も出てくるかもしれません。

ところで、前々から 3D プリンタが欲しいのですが、未だに踏ん切りが付きません。この原稿のネタになるので昨年(もう年が明けている)買おうといろいろ調べたのですが決心が付きませんでした。そもそも 3D プリントするものが無いのが大きな障害でしょうか。サンプルデータだけを何時間もかけて印字しても、出来上がるのは決まった形のものでしかなく、同じ形をしたものが売られているのであればそれを買った方がよっぽどお得です。3D-CAD を使ったデータ作成は、画像が好きな自分にとっても非常に厄介です。その上、一般の 3D プリンタは、土台面から積み上げていく方式なので、おのずと制限があります。例えば、象の鼻のように垂れ下がるような形状は非常に苦手で、何らかの補助を設計に組み込まないと印字できません。土台から離れた空中でスタートすると下に落ちてしまうからです。3D-CAD 以外でデータを作る手段としては、3D スキャナを使って既存の物体の形状を読み取る方法があります。スキャナ単独や、3D プリンタに内蔵されたものもあります。これを使うと物体を任意の倍率で複製することができますのですが、個人レベルのスキャナでは性能は今一つ粗いようです。などと今一步の部分が目についてなかなか買えません。速く進化してほしいものです。

さて、この 3D プリンタの技術についてですが、工業的にはかなり進んだ部分もあります。車などのボディや部品のプロトタイプを 3D プリンタで作成することで、経費と開発期間の短縮を図るというものです。そのほかにも人工関節のデザインや、困難な手術のためにその患者の MRI

画像から立体臓器を作成し、手術の予行に役立たせることなどが行われています。一般的な 3D プリンタが、熱可塑性の樹脂 (ABS、PLA) を使い、積み上げ方式で印字するのに対し、これらには光重合樹脂を使い、粘度の高い溶液に光を集中させて印字する方式なので、複雑な形状でも印字できるようです。中にはフルカラーで印字できる 3D プリンタもあるようで、結婚式の記念に新郎新婦のフィギアを作るサービスも目にします。ほかにも印字する素材 (インクの替わり) には金属やカーボン、ゴム、石膏、磁石、紙に片栗粉、セラミックまであるようです。実験的には細胞を 3D プリンタで印字して移植用の臓器を作る試みもあるようですが、細胞同士の接着はどうしているのか興味津々です。また、金属やセラミックは今まで作れなかったものができそうで期待が高まります。とくにセラミックといえは差し歯や入れ歯の需要がありそうですね。そのうち価格破壊が起きて、「メガネスーパー」ならぬ「入れ歯スーパー」で気軽に購入できる日が来るのも夢ではないと、来るべき老人社会にビッグビジネスと期待しているのは私だけ？ そういえば、ネイル用の 3D プリンタはもう市販されているようですね。指を入れるだけで写真のクオリティーでペイントや盛り付けをしてくれるようです。顔写真もプリントできますが、しばらく消えないので勇気は必要と思います。それから食品を作る 3D プリンタもあります。鉄板の上を書くクッキー (?) や平面的なピザのようなものですが、これがもっと進化すれば STAR TREK (DS9) とかに出てくるボタン一つで好きなものが出てくる食物用レプリケーターも夢ではありません。おっとそこの食いしん坊のあなた！ 今からナイフとフォークを持たなくていいですよ。まだまだ先の話ですから。

などとズルズル書いているうちにお時間が来たようです。今回の足掛け 2 年で仕上げた超大作いかがだったでしょうか？ プリンタも買わずにここまで引っ張るかとおきれていないで、温かい目で見てください。では、次回こそ「3D プリンタを使ってここまでできた！」を夢見てこの辺で……。



深煎り読書録

2

Presented by MICHHIRO MORI

マイクロチップやインターネットの検索エンジンなどで知られ、今やグローバルカンパニーとなったグーグル。そのグーグルベンチャーズのトップであるビル・マリスは「人間は500歳まで生きられる」と宣言しました。ご存知の方も多いと思いますが、グーグルやアマゾン、マイクロソフトなどのIT業界の会社は今、こぞって生命科学分野、とくに遺伝子工学分野に莫大な資金を投入しているのです。

一考すれば我々に馴染み深い病理・細胞診の分野においても分子生物学はもはや無視できない領域となり、診断や治療が遺伝子レベルで決定されることも少なくない時勢となりました。

そんなこんなで今回は、「難しいことはよくわからない」とか「遺伝子は苦手」という方にも楽しんでお読みいただける遺伝子に関する本をご紹介します。そもそも、この本は勉強的な要素で読む（もちろん勉強になりますが）というよりも、ただ単純に「世界の遺伝子技術はそこまで進んでいるのか!」とか「そんな夢物語が現実になりかけているのか!」といったトリビア的なスタンスで楽しめるはず!

その本とは、講談社現代新書から昨年8月に発刊された小林雅一さんの「ゲノム編集とは何か DNAのメス・クリスパーの衝撃」です。

この本の主役は、クリスパーと呼ばれるタンパク質。なんとこれは、DNAに対してメスのような効力をもつタンパク質なのだとか。クリスパーはもともと細菌が持っている高度な免疫機構であって、これを遺伝子操作へと応用することでDNA上の狙った箇所をピンポイントで切断、あるいは改変することができます。つまり、DNAをパズルのようにいじることができるのです。詳細は読んで確認していただきたいと思いますが、もはや現実として、全身大トロのマグロ、全身サーロインの牛、腐らない野菜が作れてしまう時代が到来したことは間違いありません。これをヒトに応用すれば、背の高い子供、病気にならない子供を産むことだって造作もないでしょう。大人に使えば寿命を延ばせる魔法の技術、もちろん医療へ応用も可能であり、癌の治療はもとより、マラリアの撲滅、AIDSの完治も可能となるはず。そして最も驚くべきことは、なんとこれらを推し進めている主体が前述したグーグルやアマゾン、マイクロソフトだということなのです。

全くこの本と関係ない話になりますが、オーストラリアでは数百~千人程度の人の中手にマイクロチップが埋め込まれ、このマイクロチップでドアのカギを開けたり、ライトをつけたり、あるいは手を振るだけでパソコンにログインできるというスーパーヒューマンがいるそうです。これもIT業界の仕業のひとつ。いったい、IT業界は人間をどうしたいのか、進化って何なのか考えさせられますね。

長くなりましたが、興味のある方はぜひ読んでみてください。人間が神の領域にいよいよ踏み出し始めた現実と、今後どのように対応していかなければならないのかという問題提起、この本は私たちにそんなことを教えてくれます。

ゲノム編集とは何か
「DNAのメス」クリスパーの衝撃
小林雅一

人工知能と
「神の技術」を融合すれば
人間の寿命は
500歳まで延びる!?

遺伝子の改良による
私たちの脳、身体、免疫、知能、運動能力は、
驚く速りに変えられる。

不老長寿を目指すグーグルや
アマゾンが本気で取り組む
「生命科学×IT」の可能性

講談社現代新書



新築さん、いらっしやい!!

岡山市内 新築ラッシュ編

全国的に見ても、大規模病院集中率の高い岡山市。ここ数年、岡山市内で建築の進んでいた3病院がいよいよ完成、診療開始となりました。今回は、『新築さん、いらっしやい!』と題して、各病院をご紹介します。



川崎医科大学総合医療センター

2016年
12月

2016年12月1日、川崎病院は、川崎医科大学総合医療センターと名称も新たに、待望の新築開院致しました。場所は旧病院からわずか数十メートルのところ、表町商店街や天満屋に近接する岡山市中心部です。西側の6階部分にある我が病理部の窓からは、青い空、街のビル群や30号線の路面電車が見えます。夕方には茜色の夕焼け、夜になると50万ドルくらいの(笑)夜景も楽しめます。14階の病室からは岡南大橋の辺りまで岡山市が一望



病室からはこんな夜景がみえるかも…。
cityの中心部です。

でき、旭川の花火は当に目の前にド迫力で見えるかもしれません♡

新病理部に初めて来られる他部署の方や、業者さんたちの口々からまず出てきた言葉は、“広いですね〜”と“匂わないですね〜”でした。病理部入口の扉を開けると、まずそこには明るい前室があり、そこから見える3つの扉。1階上の手術場から連絡されていて、摘出された生の手術材料を取扱う部屋、固定臓器の切り出しや細胞診の検体処理を行う部屋、パラフィン標本を作製する部屋や鏡頭・診断する部屋、というように、感染防止、作業環境の保護の観点から、業務の用途によりきっちり分室されています。切り出しや検体処理、臓器の水洗などの作業はすべてドラフト内で行い、有機溶剤を使用する染色業務や機器（VIP や自動染色機）も特注のドラフト内に収まっていて、ホルマリンやキシレンが匂うこともありません。そして、旧病院の病理部では、ほとんどすべての業務を1つの部屋で行っていたのが別々の部屋に分かれたのですから、ずいぶん広くなったように感じるかもしれませんがこれらのゆとり空間は、将来的に必要なようになってくるであろう、（できれば今すぐに欲しいものも…）様々な機器に備えて確保された空間でもあります。作業机も、敢えて背の高い棚付きの既成の実験台を使用せず、機器設置のための移動や模様替えの可能性を視野に入れ、丈夫な平机を置いていますので、尚更広く見えるのかもしれません。

このように、働く人の健康保護を第一に考えられた設計は、畠さん監修の元、高須賀さんを中心に病理部のスタッフみんなで作上げた、汗と涙の結晶です。どうぞ、この結晶がきれいなうちに（笑）、宜しければ是非お立ち寄りくださいませ。



切り出し、固定臓器の水洗用はドラフト内で。



自動染色機もドラフト内に収まりました。



VIP もドラフト内です。



細胞診断室です。(2017.3)

2015年
5月

地方独立行政法人岡山総合医療センター

岡山市立市民病院



当院は平成 27 年 5 月に天瀬から北長瀬へ新築移転し、新たにスタートをしました。

岡山市立市民病院は昭和 11 年に開院、自治体病院として市民に欠くことのできない感染症・救急など、地域に必要なとされる医療を提供し、市民の健康増進と福祉の向上に貢献してきました。

新市民病院の役割は①救急医療（岡山 ER）、②教育・人材育成、③災害対応④保健・医療・福祉の連携があります。

新病院の外観は写真の通りで地下なしの 8 階建て。快適性、プライバシーに配慮した明るく広い病室など、旧病院とは格段に良質な療養環境と最新の医療機器が導入され、職員も笑顔で頑張っています。「移転前はお世辞にも綺麗とは言えず薄暗い雰囲気でしたが、移転後はビックリするほど綺麗に！しかもお洒落というか豪華というか、ちょっとしたホテルのよう」と利



2階にレストラン、セブンイレブンとカフェテラス、1階にはタリーズコーヒーがあり一般の方も利用可能



用者の声。1階はトップクラスの広さを誇るER部門と放射線科、内視鏡検査、剖検室等があり、2階には病院総合受付、外来部門、採血室、生理部門があり北長瀬駅構内とペDESTリアンデッキでつながっているので雨の日でもぬれずに車いすでも行くことができますごく便利。2階にレストラン、セブンイレブンとカフェテラス、1階にはタリーズコーヒーがあり一般の方も利用可能です。3階は手術室、ICU、リハビリ部門、検体部門、病理部門などがあり、4階は医局、法人本部、事務系、会議

室、5階から8階は病室になっています。患者と職員が盛り上がるようなイベントも開催しています。

病理部門は旧病院の3倍から4倍と広くなりましたが、染色装置や封入機等の機器はなく、導入となった場合は以前と変わらない狭さとなります。「汚い・音がうるさい・臭い」ものは、陰圧となっている切り出し室に閉じ込めています（写真下：右端中央扉）。

こんなはずでは・・・という部分もありますが、働く環境は良くなったかな。



2016年
1月

岡山済生会総合病院



平成 28 年 1 月 1 日から入院と外来が分離し、救急診療・入院診療を行う岡山済生会総合病院(岡山市北区国体町)と外来診療を行う岡山済生会総合病院附属外来センター(岡山市北区伊福町)になりました。15 分おきにシャトルバスの運行はあるものの、徒歩 2 分という遠くはないけれども、交差点を挟んでいるため近いとも言い難いこの微妙な距離によって、病院スタッフや患者さんに生じてくる様々な不具合に今は目をつむり、私たちは病院上層部が想定している将来ビジョンを信じて新たな一歩を踏み出したところです。

入院病棟と外来病棟が分かれることで生じる問題。それは検体回収です。中央検査科の中でも検体検査や生理検査に関しては、どちらの病棟にも人員配置され設備もあるためどちらの病棟でもある程度の検査は可能となっていますが、病理検査室はオペ室に併設され入院病棟のみに新設されたので、外来病棟で採取された検体を回収しなければいけません。形状・大きさが大体同じである採血管と違って、大きさが異なり更に劇物を含むホルマリン瓶、破損する恐れのある細胞診標本、蛍光抗体用の凍結検体などマニュアル化しても、検体に関する知識を持った技師の確認作業が必要となります。また、外科・耳鼻科で実

施される穿刺吸引細胞診時の標本作製も技師が立ち会わずにはなりません。

現在の運用では、尿検体に関しては一時間に一回程度事務の方に搬送をお願いしていますが、病理オーダー状況や耳鼻科・外科外来の穿刺吸引細胞診の予約状況を確認しつつ昼前に一回、夕方一回検体回収に行っています。急に予約状況が変わることもあり、慣れていない開院初期には外来センターまでひとつ走りすることもありました。

外来センターでは皮膚科の日帰り手術なども開始され、今後とも搬送する病理検体は増えると想定します。デメリットが多いと言われている入外分離ですが、現状よりも何かいい対応を模索しつつ乗り切っていく、逆に新しい病院づくりができたかなと思います。

と、ここまで後ろ向きな文章ばかり書きましたが、新病院建設と並行して済生会看護学校も新設されています。わかりにくいですが新病院の外来センター側に建設されており、将来的に交差点を含め済生会関連施設で連結されることになれば・・・、おもしろくなると勝手に妄想しております。済生会病院周辺を通られる際には、関連施設が増えていないか観察しながら通過していただくと新たな発見があるかもしれません。



帰ってきた入門シリーズ

座長入門

藤田勝・著

座長総論

最近、学会の座長依頼をいただく機会が増えた。おそらく、「いい年になった」ことが依頼の増えた最大の要因であろう。若い人は座長をやってはならない、という法はないが、どうやら座長年齢とでもいうものが存在するようである。そんなわけだから、「いい年になったな」との自覚を感じたあたりで、あなたのところにも座長依頼が舞い込む可能性大、今から覚悟しておかれよ。

どうせやるならより良い座長業を務めあげたい、これは座長を仰せつかった者の共通の思いであろう。とは言うものの、より良い座長業とは何か、それを実現するためにはいかなる修行をしたらよいのか、また、それを指南してくれる場所や人は存在するのか、いずれについても明確な答えは見当たらないようである。平穏な日常に突如として舞い込む座長依頼。その時あなたはどうする!?

座長とは広い意味で名誉職（職業ではないけれども…）の一種である。したがって、これを依頼されることは光栄の至りなのであり、物理的問題がない限り、謹んで、ありがたく受諾することこそがこの業界の掟と心得ておかねばならない。「ありがとうございます。お引き受けいたします」、座長依頼に対する返答はこれ以外に存在しない。

§.1 『座』とは何か

座長とは、文字どおり座の長である。『長』は、社長、市長、校長などにも使われている、ある一群のまとめ役、代表者といったところだろう。では『座』って何？ここでは、座長論を展開する前に、そもそも『座』とは何であるかを考えてみたい。そこで、『座』の文字的成り立ちから探っていくと思うのだが、漢字といえばやはり白川静先生におすがりするしかあるまい。というわけで、白川静（著）・字通を紐解いてみると…、

座の文字としての成り立ちは、土の前に両人が対坐し、獄訟を争うことを示す。

のだそうである。平たく言えば、裁判の様子を示している文字というわけだ。

さらに、語系からは以下のように説明がされている。

坐は獄訟を構成すること。裁判する人と当事者をすべて含めて**坐**という。**座**はその裁判を行うところで、神位のあるところをいう。**坐**はのちに**坐臥**の意に用い、その場所を**座**という。

なんだか難しいことになってきてしまったが、つまり、**座**とは2者（あるいはその関係者も含めて）が相対する場所のことであり、そこは神聖な場所とみなされるわけだ。これをわれわれの世界に反映させてみると、学会発表で発表者と聴衆が対峙する現場、これをもって**座**とみなすことができるであろう。すなわち字通的『**座**』の成り立ちから振り返って考えるならば、**座長**とは、発表者と聴衆の間に立って、神聖な**座**を成立させ取り持つ、裁判官の如き存在といったところであろうか。うひゃー、白川静先生におすがりしたら、なんだか大変なことになってきちゃったなあ。

では、国民的辞書の代表格、広辞苑ではどう説明されているだろう。以下に、広辞苑における『**座**』の説明を転記する。

①すわる場所、席、待ち位置。②物を据え置く場所。③集会の席。④芸能の集団または劇場。（一部省略）

なるほど。こう言ってもらえたならば、さほど緊張しなくてもよさそうだ。さらに、広辞苑で取り上げられている『**座**』にまつわる言葉のいくつかも列記しておこう。

座が白ける:その**座**の興がさめる。
座を取り持つ:その場の興をさまさないよう、注意の行き届いた応接をする。
座持ち:その**座**の興を添えること、またはそれを巧みにする人。
座長:①俳優または演芸の一座の長。座頭(ざがしら)。②座談会、討論会などで進行をつかさどる人。

さて、そのものずばり『**座長**』の解説文登場とあいなつた。本論における**座長**の定義は上記の**座長**②である、と言ってしまえば今回の話は完結であろう。だが、しかし、ここで重要なキーワードがひとつ提示されたことにわれわれは注目しておかなければならないと思う。広辞苑的に『**座**』を考えるうえで欠かせないもの、それは『**興**』である。つまり、**座**を切り盛りする者に課せられた大きな使命とは「興をさまさないこと」「興を添えること」なのであると裏読みできそうだ。では、興とは何か。いきなり白川静先生におすがりするとまた大変なことになるかもしれないので、まずは広辞苑を紐解いてみよう。

興:①おもしろく楽しいこと、おもしろみ。②当**座**の戯れ。

「楽しくなければテレビじゃない」なんてキャッチフレーズをどこかで聞いた記憶があるが、どうやら『座』についても同様のことが言えそうである。「興がなければ座ではない」のだ。

さて、手元に白川静先生の字通があるので、どんな恐ろしい結論になるのかわからないが、怖いもの見たさに突き動かされつつ、せっかくだから白川静的『興』の意味するところを調べておこう。

興: 酒器を表す「同」を上下から持つ形が興である。酒器より地に酒を注ぎ、地霊を呼び起こすことが興という文字の原義。

うひゃー、地霊が出てきちゃったよー。座長たるもの、興をさまさないためには、地霊とも対峙していかなければならないのである。学会場の陰陽師、それが座長だ！

§. 2 座長の基本とは何か

『座』に対する論考をもとに、座長のあり方を考えていこう。

一般論としてわれわれにとっての座長の意味するところは、広辞苑が定義する「座談会、討論会などで進行をつかさどる人」にほかならない。しかし、逆に考えてみてほしい。この定義内容から想起される言葉は「座長」であろうか。おそらくこの質問に対する多くの人の答えは「司会」ではないかと推測するのだがどうだろう。司会と座長。これは明らかに似て非なるものである。

座長とは単なる進行役ではない。もちろん、学会における座長の役割の第一義的役割は進行役であるが、同時に座長には常に座頭（ざがしら）的要素が求められていることを認識しておくべきである。たとえ、そこが学術の場であろうとも、場全体のメンバーを一座として俯瞰し、一座の中で興をさますことなく、あるいは興を添えながら東ねていくこと、これこそが座長の技量として必須の要素なのではなかろうか。そのためにはある種のエンターテインメント性を意識しながら進行していく技を体得していく必要があるだろう。一座の役者をして、いかに優れた演技へと導くか、また、自身も一座の中でどう輝くか、この駆け引きが座長の腕の見せどころといえるかもしれない。さらに、学術集会における座長と限定するならば、駆け引きの要素の一つとして学術的深みを付加していく作業もまた、座長の技量次第といえそうである。

§. 3 座長の役割とは何か

座長は最低限、次の心得を旨としなければならない。

1. 座長はタイム・キーパーでなければならない。

時間制限のない場であればタイム・キーパーである必要はないが、おおむね時間制限の（それもかなり厳しい時間制限の）ある現場を仕切ることが一般的である以上、座長の第一の使命は、タイム・キーパーとしての役割を担うことにある。とりわけ、あらかじめ予定表に則って進行していく

会などでは、一部のズレが全体へと波及することになるため、座長のタイム・キーパーとしての責任は重い。まずは、時間厳守。ありとあらゆる手練手管を駆使して、議事を時間内に納めてこそ、座長の任を果たせたと評価されるのである。延ばすべきところは延ばし、切るべきところは切る、何気なくこんな操作ができるようになれば座長も上級クラスだろう（このあたりは、年の功が左右する部分でもあるため、座長年齢は必然的に高くなっていくのだ）。

2. 座長は演者の味方でなければならない。

座長とは、発表者と聴衆の間に立つ裁判官のごとき存在、つまり公正中立を旨とする立場として存在することが建前ではあるのだが、こと学術発表の場においては、中立的な立場を保ちつつも、可能な限り演者側のサポートに回ることができるよう配慮を怠ってはならない。演者は、一座の看板役者である、と心得ておこう。壇上に立った役者には、聴衆から容赦のない視線が送られる。それは必ずしも温かなものばかりではなく、むしろ、あらゆる要素を多分に含んだ視線である。講演が終われば、質疑応答の形式で、これまた容赦のない問いかけが演者に向けられる。質問に受け答えするのが、看板役者たる演者であることに違いはないのだが、座長も演者とともに質問を受け止める意識を持つことが肝要である（しゃしゃり出て答える必要はないが）。

3. 座長は静かに見守らなければならない。

原則として、中立的立場の座長は、場の成り行きを静かに見守る忍耐力を必要とする。けっして、「俺が、俺が」と、前に出てはならない。演者を置き去りにして、持論をとうとうと述べるなど、愚の骨頂である（いるよね、時々、そういう人…）。できる限り、看板役者の声を引き出す、そしてその引き出し役が聴衆側であるように導ければ、より望ましいと言えよう。座長は『座』を静かに見守り、聴衆と演者のキャッチボールを演出する仲人なのだ。

4. 座長は演者にプレッシャーをかけてはならない。

演者が講演を終え、定例に従って座長は聴衆に問いかける。「ただ今の講演にご質問やご追加はありませんか？」「シ——ン（会場内、物音せず）」、よく見かける光景である。「いかがでしょうか？」「シ——ン（会場内、物音せず）」。ここで座長が行うことは何か、それはもちろん、聴衆になりかわって行われる演者への質問である。「…それでは私のほうから質問をひとつ」てなことを前置きとして行われる座長からの質問。この瞬間、演者の顔は凍りつく。さっきまで味方だと思っていた座長が、突如、敵に思えてくる瞬間である。演者が役者として成熟していれば、この展開も難なくこなしてくれるはずだが、そうでない場合には、プレッシャーに押しつぶされて固まったり、あらぬことを口走ったりしがちだ。これは座長にとって望ましい状況ではない。

では、この展開のどこに誤りがあったのだろうか。それは、座長からの「質問します」の一言によるプレッシャーである。おおむね座長から提示される質問は、入念に準備された、演題の核心を突いた、演者にとってひょっとすると答えにくい、そんな質問である。質問を準備する作業は座長

にとって必須の作業であり、座長は演題の内容をこの作業を通して理解する。必然的に質問内容は難しいものになっていくだろう。もちろん聴衆は、その核心に迫ったところを聞きたいわけで、座長の準備した質問自体、悪いわけではない。問題があるとすれば、「質問します」といきなりプレッシャーをかけて、ガツンと厳しい質問を浴びせる、この展開にある。看板役者を立ち往生させない配慮、そのあたりを意識して座長からの質問を進めていただきたい。そのための方策として、演者と座長の何気ない対話からフェード・インしていくことをお勧めする。

5. 座長は裏工作をしなければならない。

できるならば、座長は発表の現場に立つ前に、演者と会話を交わしておくべきである。つまり、事前に知り合い（というほどではないが、少なくとも初対面ではない状況）になっておくのだ。長時間を要する必要はない。ただ、演者の顔を知り、声を知り、自分の顔も覚えてもらう。これは、演者との間での『場を温め、距離を縮める』作業である。

6. 座長は目線を切り替えなければならない。

座長として対応していく演者の立場は様々である。ある時は、駆け出しの新人さん。ある時は、その道の大先生。座長には、それぞれの立場に合わせた対応が求められるのだ。つまり『上から目線』、『下から目線』、『並行目線（って、そんな言葉あったっけ？）』をうまく使い分けてこそ、座長マスターと言えるであろう。逆にここをしくじると、演者ならびに聴衆から大いに反感を買うことになるので注意されたい。

このうち、『上から目線』対応はリスクであり、ある程度の年齢、経歴がなければとりにくい（というか、ある程度の年齢、経歴がなければとっちやダメ）。したがって必然的に座長年齢は高くなっていくことになる。

まとめ

教訓：座長の振り見て我が振り直せ

良くも悪くも、座長の見本は座長。意識的な座長ウォッチングが、座長の技量を高めていく礎である。学術集会の主眼が発表の内容に置かれていることは当然のことに違いないが、時には視点を座長に移し、座長がいかにか立ち回るかを主眼として眺めてみると、新しい論点が見えてくるだろう。明日は我が身、である。座長依頼がやって来るその日のために、座長ウォッチングにいそしみ、自分にとっての『よい座長』『悪い座長』を見極めよう（もしも自分がこの場で座長だったら…、というシミュレーションを始めた途端、不思議なことに座長依頼が増えていく）。あんな座長になってみたい、あるいは、あんな座長にだけはなりたくないという、目標とすべき座長、反面教師としての座長が見つかった時、あなたの座長のスキルは必ず向上する。その時あなたは、知らず知らずのうちに座長目線を体得しているのである。

座長入門

座長の振り見て我が振り直せ



子宮の日 2017

みんな子宮から生まれてきた
LOVE49



倉敷駅チーム

4月9日、無事に「子宮の日・LOVE49」の活動が終了しました。岡山細胞検査士会より、ご協力いただいた方々へ、厚く御礼申し上げます。当日は、岡山にて15名とお子様2名、倉敷にて19名とお子様2名のスタッフが参加して下さい、岡山駅・岡山駅地下・倉敷駅にてパンフレットの配布を行いました。皆様のご尽力のおかげで、計1,100部余りを配ることができました。ありがとうございました。また、袋詰め(2,000部)を手伝って下さった方も、たいへんありがとうございました。

子宮頸がん検診の受診率を増やすためには、今後も継続して活動を行うことが必要になってくるかと思えます。来年以降もこの活動を続けていくために、皆様のお力添えを賜りたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。



岡山駅チーム